

# 食料備蓄実施者のコンピテンシーに関する研究

## A study on the competency in having the food stockpile for disasters

山田 斉弘  
Narihiro YAMADA

### SUMMARY

Food stockpiles are very important measures to protect people in disaster. However, the rate of household which is carrying out the food stockpile is about 30% in Japan. It sets the purpose of this research to the competency of the person who has carried out the food stockpile for a long time to contribute to the improvement in an implementation rate of a food stockpile. As a result of analyzing by performing a web questionnaire survey in Kinki region and collecting data, the methods of food stockpile and 3 steps flow of method of food stockpile have big influence to the term of food stockpile.

### KEYWORDS

Food stockpiles, Competency, Web questionnaire survey

## 1. 研究の背景

被災時における食料物資不足は非常に重要な課題である。東日本大震災では、東北地方を中心に広範囲で物資不足が長期化している<sup>1)</sup>。しかし、平成 19 年の内閣府の調査によると、食料や飲料水を準備したと回答した家庭は 36.0%となっているが、平成 21 年の世論調査では、食料や飲料水を準備したと回答した家庭は 33.4%となっている<sup>2)3)</sup>。この結果から、食料備蓄が各家庭で十分に実行されていないことがわかる。その一方で、食料備蓄を長期継続することに成功している家庭が存在していることも確かである。そこで、本研究では、家庭での食料備蓄の長期実施を可能にする人物に着目し、その人物の行動特性「コンピテンシー」(以下行動特性)について調査し、食料備蓄の長期実施に影響を及ぼす行動特性を明らかにすることで、今後の食料備蓄実施率の向上に寄与する方法へのヒントを提案することを本研究の目的とする。

## 2. 本研究の位置付け・調査概要

先行研究<sup>4)5)6)7)8)</sup>で明かされた食料備蓄実施行動に影響を及ぼすと考えられている要因は「被災経験(被災度)」「収納スペースの有無」「年齢」「子供有無」「必要性理解」「経済状況」「知識」である。これら先行研究は、家庭での実態調査からの推察、または備蓄実施に関わる要因について研究されたものであり、食料備蓄実施者の行動特性すべてが明らかにされているとはいえない。そこで本研究では食料備蓄実施者の行動特性について明らかにし、どのような

行動特性が備蓄行動および継続に影響を及ぼすか明らかにする。本研究では、近畿 2 府 4 県の居住者を対象としたアンケート調査を実施した。調査概要については表 1 に示す。

表 1 調査概要

調査期間	2013年11月25日～28日
調査方法	インターネット上でのアンケート調査
調査対象	近畿2府4県に住む10代から70代以上の男女
回収サンプル数	各地域500サンプルずつの合計3000サンプル
男女比	男性:51.2% 女性:48.8%
年齢分布	10代:7.9% 20代:14.2% 30代:16.5% 40代:16.5% 50代:16.2% 60代:17.9% 70代以上:10.8%

## 3. 食料備蓄継続年数に関する分析

食料備蓄に関わる行動特性を明らかにするために、因子分析と一般線形モデルを用いて分析を行った。まず食料備蓄を実施する人物の行動特性を明らかにするために、質問紙に設計した行動特性 15 項目について、因子分析を実施し、4 因子を抽出した。第 1 因子は「継続性」「計画性」「意思」「責任感」の項目が高くなっており、「危機管理ができる」と解釈することが出来る。第 2 因子を見てみると「収入満足」「貯金満足」「生活満足」の項目が高いことから、「経済的余裕がある」と解釈できる。第 3 因子では「備蓄重要性」「災害意識」「危機感」の項目が高くなっていることから、「危機感を持っている」と解釈できる。第 4 因子は「ため込み癖」「収集」の項目が高いことから、「物をためこみやすい」と解釈することが出来る。つまり今回の調査では回答者についてこの 4 因子で評価することができる。この 4 因子およびアンケートデータを使用し、備蓄

継続年数に最も強い影響を与える行動特性を明らかにするため、一般線形モデルによる分析を行った。

食料備蓄継続年数を従属変数とした一般線形モデルによる分析の結果、統計的有意差が認められる6個の要因を特定することが出来た。その結果を視覚化したものを図1として示す。

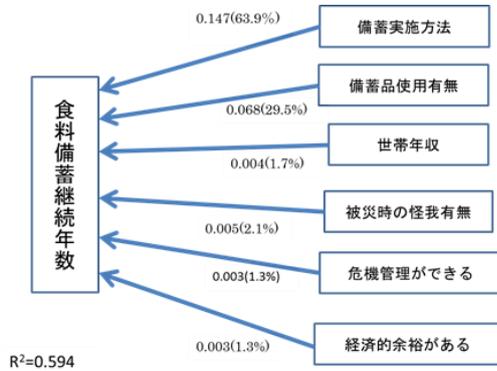


図1 備蓄実施年数を従属変数とした一般線形モデルの結果

今回の分析の結果では「備蓄実施方法」が食料備蓄の継続年数に最も強い影響を与えており、ついで「備蓄品使用」が継続年数に影響を及ぼしていることが分かる。つまり今回の結果から備蓄の実施方法を工夫している人物ほど食料備蓄の実施継続年数が延びていることが明らかにされた。

#### 4. 考察・まとめ

食料備蓄継続年数に強い影響を与えている行動特性は「備蓄品使用有無」と「備蓄実施方法」の2つであった。この結果から、食料備蓄を長期的に実施するには、実施方法に何らかの工夫が必要となることが推察される。そこで長期継続者がどのような備蓄方法を実施しているかを明らかにするため、備蓄年数と実施方法との相関分析を実施した。その結果が図2である。

第1グループは「インスタント食品等を大量購入するグループ」第2グループは「日常の中で使用・補充するグループ」第3グループは「どちらも両方実施しているグループ」となった。各グループに含まれる年数について見ると第3グループに「7～10年未満」「10年以上」が含まれていることから、第3グループの実施方法が最も長期的な備蓄実施を可能にしていることが分かる。つまり食料備蓄の長期継続には、「備蓄品一括購入→使用→補充」の3段階フローの実施方法が効果的であり、このような工夫を施すことが長期備蓄実施者の行動特性であるといえる。

このような結果になった理由としては3段階フローの

「一括購入」と「補充」に他の4要因が影響しているためであると推察できる。備蓄品を購入するには実際に費用がかかる。また、先行研究<sup>5)</sup>から、被災経験から備蓄を実施する人は多い。つまり購入段階では経済的要素および被災経験が働くと推察できる。一方で、備蓄品を補充する際には手間がかかってしまうことから計画性や継続性、意志の強さなどの意味を持つ「危機管理ができる」の因子が大きく関わってくると推察できる。これらの因子または要因は備蓄継続年数と関係したものであることから、3段階フローの備蓄方法は備蓄年数に影響を及ぼす項目が密接に関係した実施方法であり、そのためこの実施方法が継続的な備蓄実施を可能にしていると推察できる。

今回の結果が、今後の日本における食料備蓄実施率の向上および備蓄実施継続に少しでも貢献できることが出来れば、幸いである。

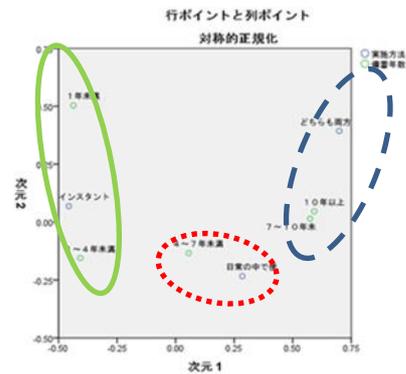


図2 実施方法と継続年数との相関分析の結果

#### 引用 参考文献

- 1) 内閣府 HP:平成 23 年版防災白書・第 1 部・第 2 章・3 被災者生活支援等  
[http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h23/bousai2011/html/honbun/1b\\_1h\\_2s\\_3.htm](http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h23/bousai2011/html/honbun/1b_1h_2s_3.htm) (2014/1/28)
- 2) 内閣府 HP:平成 19 年「地震防災対策に関する特別世論調査」  
<http://www8.cao.go.jp/survey/tokubetu/tindex-h19.html> (2014/1/28)
- 3) 内閣府 HP:平成 21 年「防災に関する特別世論調査」  
<http://www8.cao.go.jp/survey/tokubetu/tindex-h21.html> (2014/1/28)
- 4) 奥田ら(1997)阪神大震災直後家庭にはどのような食べ物と飲み物があったか 甲南家政 Vol. 32 pp. 1-20
- 5) 多田ら(1997)阪神・淡路大震災が非常時のための備蓄の実態と防災意識に与えた影響と変化 -奈良・浜松の公団住宅における- 家政学研究 Vol. 43 No. 2 pp. 33-39
- 6) 今井ら(1998)阪神・淡路大震災被災地域の公団住宅における住生活上の諸課題(第3報)モノの備えの状況とそのあり方 日本家政学会誌 Vol. 49 No. 11 pp. 57-66
- 7) 川島ら(2009)都市型地震に対する一般家庭の食料の準備行動-仙台市アンケート調査の分析-フードシステム研究 Vol. 16 No. 1 pp. 14-24
- 8) 宮崎ら(2012)家庭による食料品備蓄の便益と費用の形成要因-東海地震に対する静岡市民の準備行動を対象として- 農業情報研究 Vol. 21 No. 2 pp. 42-49